

新製品・新部品の垂直立上げ手法

アドバンスコース

新製品・新部品のQCD（品質・コスト・納期）を素早く安定させ、収益を確保することは工場のリーダーや管理者にとって大きな使命です。新しいことには失敗は付きものですが、失敗を極小にすることは可能です。現在はIT技術を駆使した開発ツールを使って設計や生産管理が可能な時代となりましたが、ツールだけに頼っていてもうまくはいきません。現場で起こる事象や担当者の悩みを的確につかみ、問題の発生を未然に防止する方法を講師の実体験をもとに紹介いたします。

対象	ものづくり現場のリーダー（中核人材）の皆様 経験年数10年程度以上
定員	30名
時間	9:30～16:30 6時間 (9:00から受付)
日程	平成29年 9月 7日(木)
会場	岐阜工業高等専門学校 図書館 多目的ホール

研修後のフォローアップ

研修後、ご希望により、逆スクーリング制度（フォローアップ）を実施します。

講師が受講者の現場を訪問し、直接指導を行います。（有料）

講師紹介

坂井 善幸

大手電機メーカーのグループ会社にて、42年にわたりマイコン応用製品からパワーエレクトロニクス製品、電力会社向けのシステム製品に至るまで幅広い製品の開発設計業務を担当。大企業とは異なりワンストップ体制での開発業務が中心であったため、設計開発業務のみならず、営業受注活動から生産改革活動に至るまで多岐にわたる分野での経験が豊富。退職後はコンサルタントとして「テクノサポートSAKA I」を創設。開発業務並びに生産改革業務を中心として企業を支援中。

プログラム

1. 新製品・新部品が生まれるまで

- 1 製品完成までの流れ
- 2 部門ごとの役割（営業・設計・製造・品証）
- 3 立ち上げ時に発生する5つの問題
- 4 5つの問題発生要因

【演習1】

2. 問題発生 of 未然防止策

- 1 抽象的な仕様を具体化させる方法
- 2 設計不備と変更点管理不備を見抜く5つの手法
- 3 生産性向上のための図面の作り方
- 4 初期発生問題の速やかな顕在化と解決方法
- 5 リーダーが事実を知るテクニック

【演習2】

3. 事例に学ぶ垂直立ち上げ手法

- 1 抽象的な仕様のレビュー
- 2 ソフトウェアの不具合解決
- 3 量産製品の歩留まり緊急改善対策

4. 垂直立ち上げ後のフォロー

- 1 稼働品質の把握と改善
- 2 生産品質の把握と改善
- 3 実力コストの把握と改善
- 4 次期モデルの構想検討と要素試作